

## 「国際アーカイブズの日」記念講演会報告

平成 20 年 6 月 9 日(月)、東京都において、「国際アーカイブズの日」記念講演会を開催しました。

この講演会は、国際公文書館会議（ICA）（1948 年 6 月 9 日、ユネスコの支援を得て設立）の設立 60 周年に当たり、6 月 9 日を「国際アーカイブズの日」(International Archives Day) とし、加盟各国において、記念行事等の開催を呼びかけてきたことに伴い、全国の公文書館等の館長、アーカイブズ関係機関協議会\*の構成員を始めとするアーカイブズ関係者、独立行政法人、企業等の関係者、マスメディア関係者、そのほかアーカイブズに関心を有する者が一堂に会し、わが国における今後のアーカイブズについて議論を進めるため開催しました。

講演会には、上川陽子公文書管理担当大臣を始めとする上記関係者の合計約 150 名が出席しました。

講演会の冒頭、当館菊池館長のあいさつにおいて、「講演会の開催に至った経緯、諸外国に比べて不十分と言わざるを得ないわが国のアーカイブズの現状、公文書館推進議員懇談会の緊急提言、福田内閣総理大臣の施政方針演説の内容、上川陽子内閣府特命担当大臣が公文書管理担当大臣として任命されたこと、内閣官房公文書管理検討室の設置、公文書管理の在り方等に関する有識者会議の開催等 1 年前には想像すらできなかったようなわが国の国家の基本に関わる公文書館制度の再検討が進められている」ことが触れられました。加えて、「こうした機会にアーカイブズに関わる者は、その使命を改めて思い起こし、確実に責務を果たしていくことを改めて確認し、また、国民全体で、国民の共通の財産である記録の重要性を思い起こし、一人一人がわが国におけるアーカイブズについて考え、議論を深める契機になる、そのような第 1 回「国際アーカイブの日」となることを祈念する」旨表明されました。

次に、高埜日本アーカイブズ学会会長から「世界のアーカイブズに学ぶ」という題で基調講演が行われました。基調講演においては、日本の歴史を通してタテ軸（通時的）に検討することで、日本のアーカイブズ制度の位置と遅れた状況を認識し、横軸（共時的）に世界のアーカイブズに学ぶことで、日本の制度を充実させることを考え、自らの経験をもとに世界のアーカイブズに学ぶことの大切さについて語られました。

引き続き、事例報告として、中四国地区公文書館の各館が実施するアーカイブズウィークにおける活動内容に関する報告が行われ、これら基調講演と事例報告とを踏まえて、当館高山理事がコーディネーター、パネリストとして高埜日本アーカイブズ学会会長、高津帝国データバンク史料館館長（企業史料協議会）、村田全国歴史資料保存利用機関連絡協議会会長（大阪府公文書館長）が参加し、パネルディスカッションが行われました。

その後、質疑応答、第 16 回 ICA クアラルンプール大会の説明が行われ、第 1 回「国際アーカイブズの日」記念日本大会アピール（別紙）が全出席者の賛同を得て決定されました。

最後に、国会の会期末という非常に多忙な中、出席していただいた上川陽子公文書管理担当大臣からあいさつがありました。

あいさつにおいて、大臣から、「政府や民間の活動、歴史的事実の正確な記録は、人類共通の財産として後世に伝えていかなければならない、そのためには、国民一人一人、アーカイブズ関係者の皆様方、そして国、自治体、大学、企業などの組織や機関が一体となって、こうした記録の保存に努めるとともに、現在はもちろん千年先の未来に生きる人々にもこれらに接し利用していただくことを見据えた取組を積極的に進めていくことが必要、本日の「国際アーカイブズの日」は、皆様方にまさにそのことを思い起こしていただくまたとない機会であった、私としても、公文書は、国も、地方も、一般の方々も、現在及び未来に生きる誰もが利用すべきものであること、また、公文書の適切な管理は、行政事務の効率性の向上や職場環境の改善にも資するものであることという基本的な考え方に立ち、公文書管理の「在るべき姿」、いわばゴールドモデルの構築と実現を目指したいとの思いを強くした、今後とも、皆様方にはより一層の御指導・御鞭撻をお願いしたい」等表明されました。大臣には、その後の「国際アーカイブズの日」記念講演会懇親会にも再度出席をいただき、全国の公文書館等の館長、アーカイブズ関係機関協議会、独立行政法人等の関係者との意見交換が行われました。

なお、アピールの採択を含む今回の「国際アーカイブズの日」記念講演会の取組については、国際公文書館会議の発足60周年記念大会となる7月のICAクアラルンプール大会において報告することとしています。

※（平成19年5月設立 構成員:ARMA International 東京支部、企業史料協議会、記録管理学会、独立行政法人国立公文書館、日本アーカイブズ学会、日本画像情報マネジメント協会、日本歴史学協会国立公文書館特別委員会、全国歴史資料保存利用機関連絡協議会（オブザーバー））



【館長挨拶】



【基調講演】



【事例報告】



【パネルディスカッション】



【上川公文書管理担当大臣挨拶】



【懇親会】

## 第1回「国際アーカイブズの日」記念日本大会アピール

平成20年6月9日

1. 国際公文書館会議(ICA)は、1948年6月9日、ユネスコ(UNESCO)の支援を得て設立された。本年が、設立60周年に当たることから、ICAは、6月9日を「国際アーカイブズの日」(International Archives Day)とすることとし、初めて加盟各国において、適切な記念行事等の開催を呼びかけた。
2. これを受けて、わが国においても、全国の公文書館等の館長、「アーカイブズ関係機関協議会」(平成19年5月設立 構成員:ARMA International 東京支部、企業史料協議会、記録管理学会、独立行政法人国立公文書館、日本アーカイブズ学会、日本画像情報マネジメント協会、日本歴史学協会国立公文書館特別委員会、全国歴史資料保存利用機関連絡協議会(オブザーバー))の構成員を始めとするアーカイブズ関係者、独立行政法人、企業等の関係者、マスメディア関係者、そのほかアーカイブズに関心を有する者が一堂に会し、「国際アーカイブズの日」記念日本大会を開催した。
3. この第1回目となる「国際アーカイブズの日」記念日本大会において、我々アーカイブズ関係者は、以下について、改めて認識を共有した。
  - ・ アーカイブズは、人類共通の遺産として、後世に伝えなければならないものである。
  - ・ アーカイブズは、過去を直視し、将来を見通すものである。
  - ・ アーカイブズは次世代の国民へ説明責任を果たすためのものであり、民主主義の基盤である。
  - ・ アーカイブズは、国や地方自治体のみならず、広く民間の記録も含むものである。
  - ・ アーカイブズを保存し、広く一般の利用に供することが、アーカイブズ関係機関の任務であり、アーキビストの使命である。
4. 以上のような共通認識の上に立って、今後我々は、日本のアーカイブズ文化の発展のために全力を尽くし、さらに国際的な協調のもとに、世界全体のアーカイブズの発展に貢献していくことを誓うとともに、広くすべての国民に対し、アーカイブズの機能と役割について認識を深めていただくよう強く求めるものである。